



郷土資料

あれこれ 77

〔問合せ〕

社会教育課郷土史編さん係

☎773-2197

郷土資料あれこれ⑦④では、南魚沼のちよつと昔の冬の風景を紹介しました。今回は春先の風景を紹介します。

①春とともに農家では、とても忙しい時期を迎えます。特に苗代・田植えの時期になると、家族は総出で、あるいは隣近所、仲間と協同で作業が行われました。この時期には、各地で農家の繁忙期を中心に「季節保育所」が開設されました。



写真①

昭和38年の季節保育所は、4月15日から津久野、麓などでは、他の地区よりも早く開設されたそう

です。繁忙期に子どもたちの面倒見てくれるため人気だったそうですが、開設期間が短かいことが母親たちの大きな悩みだったといえます。

このころから、公設の保育所の開設が増えていったようです。

②江戸時代に栽培が始まったという伝統野菜「大崎菜」の出荷の最盛期は、3月初旬から彼岸前後の約1か月間だそうです。（昭和34年当時）



写真②

昭和34年は小雪、暖冬で一気に出荷が始まり、一日に千束も出荷する農家があつたといえます。この年は一束10円前後で販売されました。

③農家にとって欠かすことのできない春作業に味噌造りがあります。味噌造りは、春先の雪消え前に庭先で始まります。豆をとり火で半日〜一日かけて煮て、煮あ

がった豆を潰し、手まりほどに丸めて味噌玉を造ります。味噌玉は囲炉裏の上のダナにつり下げられます。15日ほどで、味噌色に色づき、風味が増してくるといいます。



写真③

味噌玉造りは、昭和40年代初めには、すでに見かけることは少なくなっていたそうです。

④春の山作業では、残雪と大型の櫓こしを利用して、切り倒した大木を木材として運び出す作業が行われました。この時期に行うのは、消雪後では時間、労力、経費がかさむためです。



写真④

《参考資料》「魚沼新報」

写真は個人所有

くれよんクラブの「景区

〔問合せ〕保健課 保健業務班

☎773-6811

「くれよんクラブ」は、子どもの育てにくさを感じている保護者や、障がいのある子どもを持つ保護者の集まりです。月1回開催し、情報交換や勉強会を行っています。保育士がいるので、子どもと一緒に参加も安心です。申込みは不要です。

4月22日(月)

時間 午前10時〜11時

会場 子育ての駅「ほのぼの」(イオン六日町店専門店舗)

内容 ペアレントメンター(発達障害のある子どもの子育てを経験し、相談に関するトレーニングを受けた保護者)と話をしよう

5月20日(月)

時間 午前10時〜11時

会場 子育ての駅「ほのぼの」

内容 就学相談、就学後の支援について(学校教育課指導主事の講話)

6月17日(月)

時間 午前10時〜11時

(現地集合 午前10時)

会場 市立総合支援学校

内容 市立総合支援学校の見学

参加者の声 「安心して日ごろの悩みや、思いを話すことができた」

「気持ち楽になった」など

「気持ち楽になった」など

「気持ち楽になった」など

「気持ち楽になった」など

「気持ち楽になった」など